

5 これからの石炭記念館が果たすべき役割

これまで石炭記念館は、本市の石炭産業発展の歩みと、それとともに醸成された文化を伝えていく場として、重要な役割を果たしてきました。

その一方、現在では脱炭素社会の形成という時流から、石炭をはじめ化石燃料に対して厳しい目が向けられる状況にあり、石炭記念館の使命は終わったとする意見もあります。

しかし、石炭産業により培われた掘削技術や保安技術などは、今もトンネル建設工事などで技術移転する形で活躍し続けています。また、石炭は、現在でも鉄製品やセメントの原料に使われるなど、私たちが日常生活を送るうえで重要な役割を担っています。

検討委員会の提言書では、こうした現状を踏まえ、「石炭産業を過去のものとして捉えるだけでなく、石炭が生み出した都市のパワーや石炭活用の可能性を踏まえて未来を展望することがこれからますます重要になってくる。その情報発信の中心的役割を果たすのが石炭記念館である。」と提言されています。そして、「石炭記念館は宇部市にとって恒久的な価値ある施設との位置づけのもとで、新たな時代にも十分に耐えうる機能をもった施設へと生まれ変わっていくことが重要」とされ、今後の石炭記念館の意義・目的として、次の3点を挙げられました。

- ①近代化産業遺産群(九州北部・山口県の石炭産業)の宇部炭鉱関連遺産として登録された所蔵品には全国的に珍しい資料もあり、当時の豊坑櫓を利用した展望台は全国にも類を見ない特徴的なものであること。
- ②これらを本市の貴重な観光資源として積極的に活用していくべきであること。
- ③これまで行ってきた資料収集・保管や教育普及などといった活動についても一層促進していくこと。

この意見を踏まえ、石炭記念館の今後の基本コンセプト、果たすべき役割を次のように示します。

